

山田朗・平和と憲法講演会

「参議院選挙後の情勢と憲法」

…近現代の歴史から東アジアの平和を考える…

2010年7月24日(土)14時

ウエルとばた 多目的ホール

講師 山田朗氏

(やまだ あきら)

資料代300円



山田朗氏プロフィール

明治大学文学部教授、専攻は日本近現代史、日本軍事史・天皇制論。満州事変・日中戦争・太平洋戦争に関する上奏文等の史料検討を通じて、戦時下の昭和天皇が、一般に論じられたような「軍事に疎く、戦争を忌避する平和主義者」といった性格を持つ人物でなく、十分な軍事的知識・情報を持ち、様々な局面で、積極的に戦争指導に関与した「政略の統合者」「穏健な膨張主義者」であったとする、新たな昭和天皇像を打ち出した。1994年の著書「大元帥・昭和天皇」(新日本出版社)で、第20回野呂栄太郎賞を受賞。自衛隊再編(縮小の上、国境警備と国家レスキュー隊に改編)論者であり、時事的な政治・外交・教科書問題などについての言及や著作も多い。

主な著書・「昭和天皇の戦争指導」(1990年昭和出版)

「軍備拡張の近代史 日本軍の膨張と崩壊」(1997年吉川弘文館)

「護憲派の軍事入門」(2005年花伝社)

「日本近現代史を読む」(2010年新日本出版社/共著)

5月3日宮崎市で開かれた憲法や平和のあり方を考える集いで明治大学の山田朗教授が、「東アジア近代の歴史から平和を考える」と題して講演しました。

山田教授は、「太平洋戦争がなぜ起きたかを考えるには、日露戦争から歴史の検証を始める必要がある」と述べました。また、「日露戦争で、日本軍は兵力がなくても勝てたと軍が都合よく解釈した。これが日本軍の伝統として作り上げられた」と解説し、日本の近代の歴史を認識しながら平和を考える必要性を訴えました。(テレビ宮崎ヘッドラインニュース テレビ宮崎HPから)

おことわり

参議院選挙の投票日が7月25日(日)となった時は、講演会は中止します。

共催 連絡先

憲法改悪反対北九州共同センター 921-0747
北九州地区労連 小倉北区黄金町1-4-9-207
9条の会・北九州憲法ネット 591-5522
小倉北区田町13-21 田町ビル3F